

# 第4回「ATAMI2030会議」

熱海リノベーションまちづくり構想検討委員会

日 時 平成28年11月24日(木)

18:00～20:30

場 所 熱海市福祉センター3階 大広間  
中央町1-16

今年度熱海市では「リノベーションまちづくりと融合した創業支援による地域活性化」事業の一環として、リノベーションまちづくり構想を策定します。

策定にあたっては、不動産オーナーや有識者による委員会を設置し、今回を含め年度5回の公開型会議を開催いたします。この会議は、市民や民間事業者、創業希望者など様々な方にご参加いただき、2030年を見据えた熱海の「暮らし」「仕事」「ツーリズム」を考え、行動に移すきっかけの場にしたいと考えています。

遊休化した不動産という空間資源と潜在的な地域資源を活用して、民間自立型プロジェクトを起こし地域を活性化し、都市、地域経営課題を複合的に解決するため、熱海のまちを変える方向性をみんなに議論し、構想という形でまとめます。

第4回目は「福祉と健康」をテーマに、ゲストによるトークや事業者によるミニトークを行った後、会場を交えた意見交換を行いました。

## ○次第

1. あいさつ・・・熱海市観光経済課 課長 立見 修司

2. 開催趣旨と今回のテーマのご説明・・・熱海市観光経済課産業振興室 主幹 長谷川 智志

3. 実践者ミニトーク × 13

熱海市役所健康づくり課 佐藤 真由美 氏

NPO法人エシカファーム理事長 風間 康寛 氏

水谷寝具株式会社取締役 水谷 光一郎 氏

NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡東部支部長・理事 米山 世紀 氏

株式会社伊豆おはな代表取締役社長 河瀬 豊 氏

青いかば旅行社代表者 長谷川 浩平 氏

Herb House Angelica 三輪 幸恵 氏

情報サイト「こどもとあたま」運営 小倉 育恵 氏

Smile熱海子ども食堂 石橋 浩美 氏

NPOきろる熱海の会会長 齊藤 壽 氏

七尾団地町内会会長 大友 勇 氏

株式会社リボンプロジェクトボディデザイン研究所所長 古賀 美那子 氏

株式会社PEER代表取締役 佐藤 真琴 氏

#### 4. 休憩(10分)

5. ゲストトーク 「生き生きとした、持続可能で、健康的な地域を取り戻す」  
下関市保健部長・下関市立下関保健所長 福本 怜 氏

#### 6. 会場も交えた意見交換

### ○内 容

まず初めに、第4回「ATAMI2030会議」の開催にあたり、熱海市観光経済課長立見から、この会議も4回目を迎え熱海の新しい可能性が徐々に見えてきた。これまで建物・空間・産業面でのリノベーションの話を行ってきたが、今回は熱海を愛する、熱海に関わっていただける、すべての人に対するリノベーションだと思っている。また、この場は熱海が一步上に行くための試金石となるものであると思っており、今回の議論も非常に楽しみにしていますとの挨拶に続き、市の担当者から今回のテーマ設定、「福祉と健康」の説明が行われました。

その後、実践者によるミニトークとして総勢13名の方々にお話しいただきました。まず始めは、熱海市役所健康づくり課佐藤真由美氏による市全体の健康状態や平均寿命、健診受診率等の状況をご説明いただきました。ただ平均寿命を延ばせば良いというものではなく、元気に長生きするためには生活習慣病の予防が第一で、その他に痛みがあっても動ける体・環境を作る事が重要であるというお話をいただきました。2人目は、NPO法人エシカファーム理事長風間康寛氏による障がいのある子ども達の支援(幼稚園、放課後支援、就労支援等)に対する取り組みのお話をいただきました。3人目は、水谷寝具株式会社取締役水谷光一郎氏による介護ショップミズタニの事業理念(スタッフ一同のスキル向上、常に笑顔で仕事を行う)のお話をいただきました。4人目は、NPO法人青少年就労支援ネットワーク静岡東部支部長・理事米山世紀氏によるニートや引きこもりと呼ばれる若者の就労支援をボランティアで行っている取り組みのお話をいただきました。5人目は、株式会社伊豆おはな代表取締役社長河瀬豊氏による訪問介護福祉タクシー事業のお話をいただきました。6人目は、青いかば旅行社代表者長谷川浩平氏による、高齢者、障がい者に伊豆の旅をお手伝いする旅行会社(健常者+障がい者)からの優しい街づくりの取り組みのお話をいただきました。7人目は、Herb House Angelica 三輪幸恵氏による、エクササイズ&ハーブで心と体を整えるリラクゼーションの提供から、子育て中のママ支援の取り組みのお話をいただきました。8人目は、情報サイト「こどもとあたま」運営小倉育恵氏による、情報サイト「こどもとあたま」の内容、おむつの交換台設置場所や授乳スペース等施設をマップ化するサイトの取り組みをお話しいただきました。9人目は、Smile熱海子ども食堂石橋浩美氏による、熱海版子ども食堂(子どもからシニア)で学びと食の世代間コミュニティ居場所づくりと地元民と移住者の異世代交流を目指す取り組みのお話をいただきました。10人目は、NPOきろる熱海の会会長齊藤壽氏による、バス停にベンチを寄贈設置してきた取り組みやコミュニティサロンの取り組みをお話しいただきました。11人目は、七尾団地町内会会長大友勇氏(当日悪天候のため欠席・市担当者が説明)による、使われていない公民館を人が集える居場所に変える取り組みのお話をいただきました。12人目は、株式会社リボンプロジェクトボディデザイン研究所所長古賀美那子氏による、運動指導で健康になるサポート・教室や介護予防運動の取り組みをお話しいただきました。13人目は、株式会社PEER代表取締役佐藤真琴氏による、抗がん剤患者のためにかつらを作る美容院の取り組みや、患者さんが物を使う時間をサポートする取り組みのお話をいただきました。

休憩後、ゲストトークとして「生き生きとした、持続可能で、健康的な地域を取り戻す」と題し、下関市保健部長・下関市立下関保健所長の福本怜氏による、生き生きとして、持続可能で健康的な地域を取り戻すために必要なもの・きっかけの説明が行われました。

その後、委員を含めた約100名の参加者による意見交換が行われました

竹内委員からは生き生きとした空間に人が集まれる場所を作るのがこれからの建築家としての仕事だと感じた。

大久保委員からは人が生き生きとしているところには人が集まるし、まちの人が歩いているところには人が歩きたくなる空気が流れるとあらためて感じた。

江口委員からは大学の講義のなかで脱施設ということを教えている。病院であったり保育園であったりするが、もっと自由に場づくりをして豊かな生活をするのが大事。

佐藤委員からは実践者トークでは女性の起業家が多かった印象を受け、未来があると感じた。また、色々な方の話を聞き感じたことは「足るを知るものは富む」ということである。事業者の方も足るを知っているからこそ豊で、また皆さんに足るを振り撒ける様な事業を心掛けているのではと感じた。

水野委員からは本日面白い取り組みをされている方が多くいることを知った。だが、同時にあまり知られていないのではと感じた。PR 含め知ってもらうことはとても重要で、まちを通してやっていく必要がある。

山本委員からは生き生きと交流し活動する地域、魂が安らぐ場所を作っていきたいと思う。

桐谷委員からは皆さんの話を聞き、熱い情熱を感じた。これが熱海なのではと思った。

市来委員からはまちづくりをやってきたなかで、今まで福祉とか健康にはぜんぜん関わっていなかったが、暮らしに根ざした健康づくりというのは自分達が行ってきた事業のなかでも丁寧な働き方ができる形にしていくこと、自分達のコミュニティに閉じこもらないということを感じた。

大島委員からはリノベーションは今ある状況を活かすということで、何となく医者という感じがしていた。ではどう治すかだが、潜在的に持てるまちの魅力を引き出し、外科的治療ではなく対話をするのである。

#### その他意見

- ・熱海は高齢者が多いまちと思っている人が大半だと思うが、実は違う。有料老人ホームが数多くありその人達を含めると多い。ある種、特殊なまちである。そして、厚生労働省の定義だと65歳以上を高齢者としているが、すべてが同じではない。定義を見直すことも必要。  
→高齢者の定義がでたが、サザエさんの波平さんを例に50年前の65歳と現在の65歳は10歳ぐらい若返っており高齢者の定義は本当に正しい。そして、岩手県盛岡市にあるデイサービス複合のまちライブラリを例に、地域に開けば人は自然に交流することが生まれる。(福本氏)
- ・お店をやりたいと思っているが、そのベースには福祉があり生き生き暮らせる場所を作っていきたい思いが強い。